

教育委員会だより

田ノ口小学校

意欲的に活動し心豊かにたくましく生きる児童の育成

校長 石川 恭弘

田ノ口小学校は、私小説作家の上林暁が卒業した学校です。校内に「努力の碑」が建立されており、学校の図書室には「上林暁文庫」が設けられています。

このような環境のもと、本校は今年度、児童数74名、職員数12名でスタートしました。

黒潮町では、子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上を具体的施策に掲げており、本校でも学力向上に向けて取り組みんできました。

子どもたちが学習の内容をどのくらい理解しているか、学んだことがどのくらい身についているかを調べるCRT（到達度把握検査）の昨年度の結果を見ると、算数科の総合では、どの学年も全国得点率を上回っていました。

一方、国語科の総合では、低学年は全国得点率を上回っ

ていましたが、高学年では全国得点率より低いという結果でした。そこで、国語科の内容を詳しく見ていくと、「話す・聞く」、「書く」、「読む」に課題があることがわかりました。

平成18年度の結果

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
算数	1.07	1.01	1.12	0.89	0.98	0.98
国語	1.07	1.01	1.06	1.06	1.07	1.07

※全国得点率を「1」としたときの得点率を表しています。

校内研究の取り組み

平成18年度の結果をふまえて、今年度も昨年度に引き続き、国語科で取り組むことにしました。

校内研究のテーマを「豊かな表現力の育成」と設定し、

豊かな表現力を①自分の言いたいことを整理し、組み立て表す力（書く）②話を聞き取り、文章を読みとり理解する力（聞く、読む）③相手を理解し、大切にし、伝える力（話す）と捉え表現力の育成に重点をおいて研究を進めています。

具体的な取り組み

1、授業力向上を目指した授業研究の実践および検証

① 研究授業
学校の教育活動の中心は授業なので、全学級が国語科を中心に研究授業を実施し、授業力の向上を図る取り組みをしています。

② 講師招聘

研究授業を実施する前の指導案の検討の時、研究授業の時、研究授業が済んだ後には講師を招いて研究授業について指導していただいています。

指導案の検討の時には、模擬授業を実施する場合もあり、研究の充実を図っています。

③ 授業評価表の活用

研究授業の際には、授業の後、子どもたちにふりかえりカード（授業評価表）に記入してもらっています。また、

研究授業を参観した教員も参観者用の授業評価表に記入し児童用と参観者用の授業評価表を集計し、研究授業の反省に活用しています。

参観日の時にも、保護者に授業評価表に記入していただき、授業の振り返りができるようにしています。

④ 研究会や研修会への積極的な参加
授業力の向上のために、積極的に研究会や研修会に参加することを職員間で確認しています。夏季休業などを利用して自己研さんに励んでいます。

また、外部の教育機関から専門的な講師を招聘し、研修する場を確保し、児童理解など教師としての指導力を高める取り組みをしています。

2、学校裁量の時間（せせらぎの時間）の活用
月曜日の6校時（3年～6年）と水曜日の5校時（1年～2年）を「せせらぎの時間」として、加力学習を行うなど有効的な活用を図っています。

3、読書活動の推進
火曜日から木曜日までの朝8時20分から30分までの10分間を読書に親しむことを目的に、朝読書の時間として設定

しています。

4、地域の方をゲストティーチャーとして活用
子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図るために地域の方を積極的にゲストティーチャーとして活用しています。今年度も英会話、食育指導、野菜作り、茶道、ストーリーテリングなどを予定しています。

5、発表朝会
子どもたちの表現力の向上を図るために、各学級が全校児童の前で発表する場を設定しています。保護者の関心が高く、発表する学級の保護者は参観にきます。



5・6年生児童

以上のような取り組みを地道に継続し、本校の教育目標の「意欲的に活動し、心豊かにたくましく生きる児童の育成」に迫ることができるよう職員一同、頑張っています。

三浦小学校

豊かさたくましさを持ち
活力のある子どもを育てる

校長 松田 恵美

はじめに

本校は1年生11人、2年生7人、つくし学級1人、3年生10人、4年生6人(3・4年生は複式学級)、5年生6人、6年生7人の児童数48人、6学級の学校です。
「安心できる学校」を学校の柱に据えています。

校内研究について

研究主題

主体的な学習活動をめざしてよく聞き、よく考え、豊かに表現する力を育てる

課題への取り組み

研究主題は昨年度を引き継いでいますが、新たな部分と継続の部分がありますので、前段の新たな部分について述べたいと思います。

年度当初の校内研究会で、18年度の課題から子どもをどうとらえて、どう取り組むかについて話し合いました。

「生活面・生活集団を高めるために」どう取り組むか

- ①言葉遣いや人間関係について情緒の育ちの違いを知り、認められる事実を積み上げて自尊心を育てるとともに、個々が集団の一人としてしっかりとした価値観を持てるように取り組む。
- 子どもたちがお互いに多面的に認め合えるように評価を考える。

②集会の態度について

- 集合するまでのプロセスをきちんと示して、評価する。また、児童会は待ち時間を工夫できるよう指導助言する。

- 気になる児童には、状況に応じて指導する。

③きまりが守りにくいことについて

- 遊びの文化をつくっていく。雨の日は室内で個人また集団で楽しめる知的な遊びを教え評価する。

④校内でのあいさつについて

- できるだけこちらから声をかける。
- ⑤基本的な生活習慣について生活点検などをして、親とともに生活改善を考える。

⑥上級生の自信を育てることについて

- 価値のある姿が見える取り組みをして意識を高める。

「学習面・学習集団を高めるために」どう取り組むか

- ①思考力・読解力を高めることについて
- 朝読書の取り組みを継続し、落ち着いた態度の育成と文字言語に触れる時間を保障する。
- 自分の考えを書いたり伝える授業を工夫する。
- 各教科で書いて考えることを大事にする。

②読書力について

- 本の紹介など積極的に行う。

③学習規律について

- 教材研究を深くして、発言を仕組んでいく。

本校の課題解決にむけて、まず教室に「遊びの文化」をつくり、「チャイム席」「廊下で遊ばない走らない」ことをみんなのきまりとしてしっかりと守らせることに取り組みました。また、校内研究では、「取り組みを見直そう(課題と取り組み・その経過について)」のテーマでレポートをもとに話し合っています。

児童朝会で発表された価値ある内容は掲示板に張り出して指さしを図っています。

楽しい授業づくり

先にも述べましたが、本校の学習面での課題は思考力・読解力を高めることです。見通しをたてたり、イメージする力、伝える力もつけなければならぬと考えています。左表の《18年度のCRTの結果》からも、国語科の「読む能力」、算数科の「数学的

な能力」に課題があることがわかります。縦割り班長を育て、児童会の取り組みに活力をつけ、業間体育では仲間作りのためのゲームを仕組み、清掃活動では班長会を機能させるようにしています。

リーダーを育てる

上級生のリーダー性を育てるために、上級生が自信を持ちモデルになる手だてを考えたいです。

「な考え方」に課題であることが伺えます。こうした力を育てるために、授業研究で模擬授業も取り入れ教師も授業を楽しみながら指導法を探っています。

おわりに

私たちは、子どもたちが落ち着いて学びの姿勢に向かうには、9月の夏休み明けの一週間の取り組みが大事であることを話し合いました。子どもの生活態度を見極め、まず気になる行動があればすぐに担任と連絡を取り合い指導を行う体制を、1学期の実践を基盤に、再度確認をし合って2学期の取り組みをスタートさせたいです。

18年度CRT(到達度把握検査)の結果

【国語】教科総合得点率			観点別全体得点率							
本校	比	全国	関心欲 態度	話す 聞く 能力	書く能力	読む能力	知識理解 技能(言語)			
78	↑	76	76	78	82	96	83			
【算数】教科総合得点率			観点別全体得点率				領域別全体得点率			
本校	比	全国	関心欲 態度	数学的 考え方	表現 処理	知識 理解	数と 計算	量と 測定	図形	数量 関係
83	↑	78	83	74	88	87	85	79	87	77